09 計画演習 II A
1. 神戸ウォーターフロント　マスタープラン課題

開講年次：学部４年生第１クォーター

［担当教員］
課題説明：近藤民代（准教授） 栗山尚子（准教授）
　　指導：所属研究室教員

■課題趣旨
神戸のウォーターフロントは緑豊かな六甲山系と大阪湾の青い海に挟まれた日本を代表する港町である。開港以来、もの、人、文化のゲートウェイとしての役割を果たし、神戸独自の都市的な文化を醸成してきた。

しかし、近年港湾部の工業や物流の衰退に伴いウォーターフロントの未来へのビジョンが問われている。ウォーターフロントの再生は世界的な課題であり、アメリカ・シアトル市においても老朽化の進んだ高架高速道路の地下化及び港湾防波堤・インフラの更新、そしてダウンタウンと水辺をつなげて国際的な都市の競争力を高めるための取り組みが今まさに始まっている。

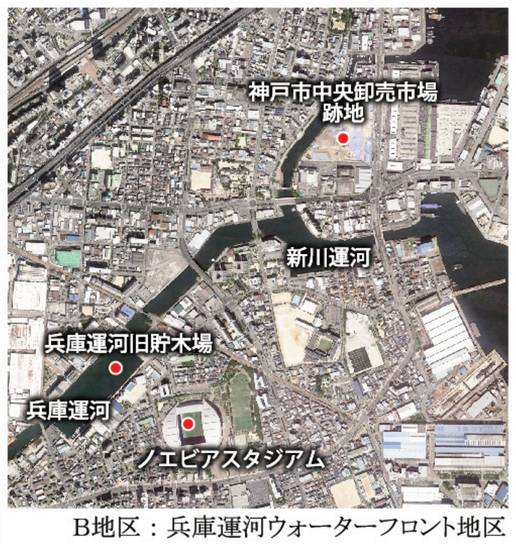
今回の課題「神戸ウォーターフロント」は2つの面的な敷地を対象に、ウォーターフロントのビジョンを環境、文化、生態、安全、健康、アクティビティなど包括的な視点から考えることとする。既存の都心エリアの魅力や既存の公共空間や公園などランドスケープ資源を活用しつつ、道路や港湾など土木施設のリノベーション、そして海と都市をつなげて世界的な神戸ウォーターフロントを構想するための計画を提案してほしい。

■敷地（別紙地図）
計画地区は、別紙地図に示す神戸市のウォーターフロント及びその周辺地域を含む A の地域（都心ウォーターフロント地区）である。地区特性、土地利用、ウォーターフロントへのアクセス等を考慮すること。

■A 地区：都心ウォーターフロント地区
A1：みなとのもり公園 2 期、第 1 ～第 3 突堤、
　　波止場町 1 丁目、東遊園地～神戸市役所付近
A2：メリケンパーク、ポートタワー周辺
拠点オープンスペース：東遊園地（A1）、メリケン広場（A2）など
■B 地区：兵庫運河ウォーターフロント地区　※2020 年度は対象とせず
B1：新川運河
B2：兵庫運河
拠点オープンスペース：神戸市卸売市場跡地（B1）、兵庫運河旧貯木場周辺（浜山キャナルプロムナード・浜山小学校・ものづくり復興工場付近）（B2）など



A 地区：都心ウォーターフロント地区

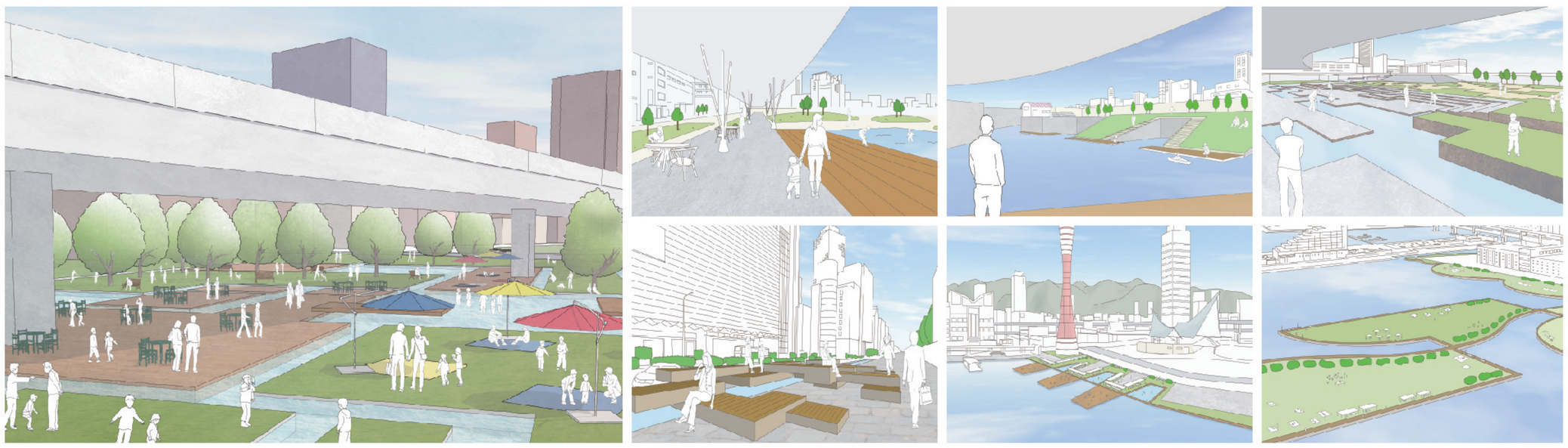


B地区：兵庫運河ウォーターフロント地区

縁 - あいだ - のにぎわい

安治徹　大西健太　小野原祐人　田島広大　福原草雅　八木和　（槻橋研究室）

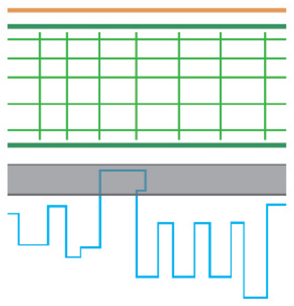
都市を建築に、ウォーターフロントを庭に見立て、それらの間に位置する高架下空間が、内部と外部を緩やかに結ぶ縁側のような役割を果たすことを目指す。また、都心部内では、歩行者空間が縁側となり、建築群と車道側の水路を緩やかに結ぶものとして存在する。



・神戸ウォーターフロントの図式化



・線路と高架に挟まれた都市部では、主な道路が直行するように広がっている。
・海岸線が非常に入り組んでいる。
・大正時代に完成した摂津貨物鉄道の名残であり、物流の要であった神戸を象徴する地形である。

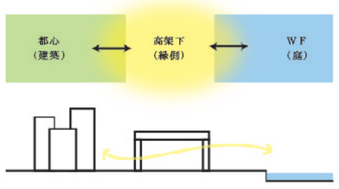


・縁側のような、都心とウォーターフロントを緩やかにつなぐ空間を都市へ

都市を建築（内部）に、ウォーターフロントを庭（外部）に見立て、それらの間に位置する高架下空間が、内部と外部を緩やかに結ぶ縁側のような役割を果たすことを目指す。
また、都心部内でも、ビルなどの建築群と車道側の水路を緩やかに結ぶ存在として歩行者空間を縁側と見立てデザインする。

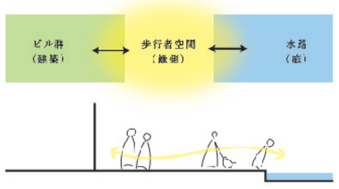


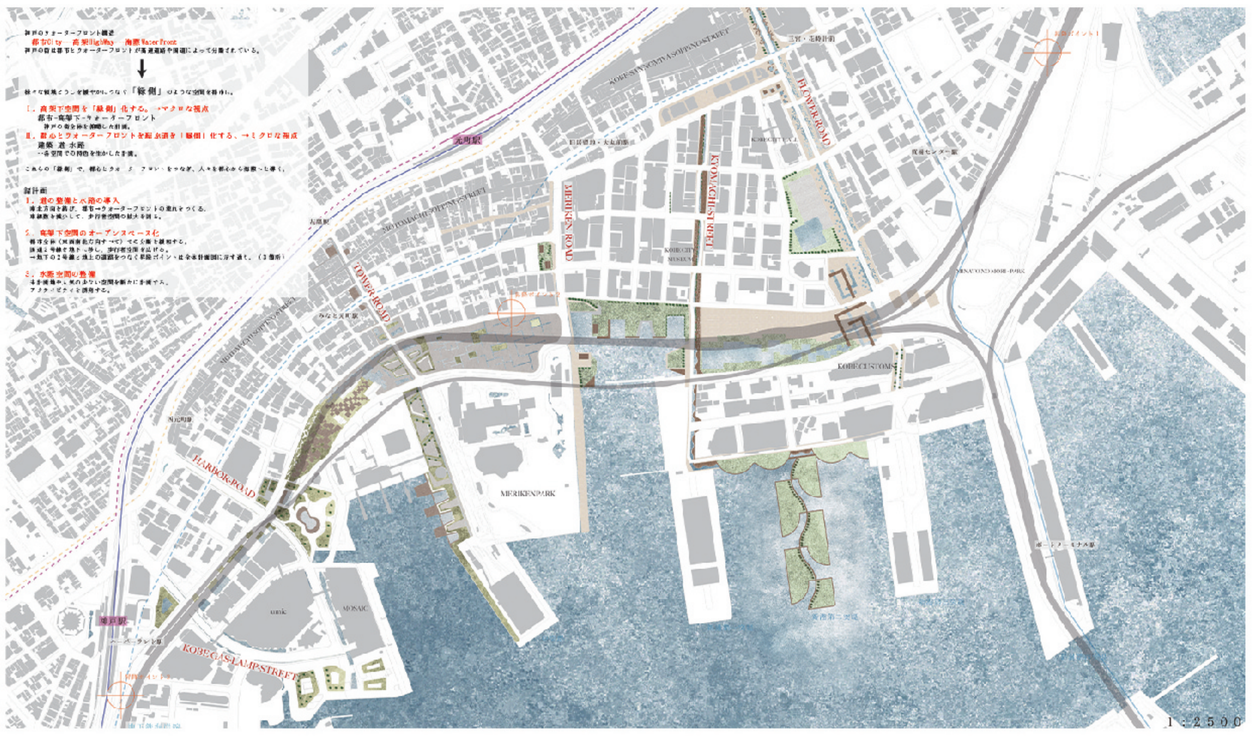
Ⅰ．マクロな縁側（高架下を縁側化する）



×

Ⅱ．ミクロな縁側（歩行者空間、道を縁側化する）





計画演習 II B
09 2．神戸ウォーターフロント　ランドスケープ課題

開講年次：学部４年生第２クォーター

［担当教員（後半）］
吉武宗平（鳳コンサルタント） 八木弘毅（日建設計シビル）
近藤民代（准教授） 栗山尚子（准教授）

［Teaching Assistant］
檀野航（A68） 佐田桜（A68）

課題：パブリックオープンスペースのデザインを核にした Livable City 神戸の創成

■課題趣旨・目標

前半の都市デザイン課題では都心部のウォーターフロント地区と兵庫運河ウォーターフロント地区を対象に都市地域再生のマスタープランを作成した。 後半のランドスケープ設計課題は未来の地域の拠点として都市の活力を牽引するパブリックオープンスペースのデザインである。 都心・兵庫運河ウォーターフロントへ広がる面上の敷地に都市への戦略を保持しつつ微細な空間や環境を併せ持つ魅力的な拠点オープンスペースを構想してほしい。 新しい都市のライフスタイルや多様なプログラムを許容する空間、 様々なスピードや流れに対応するデザイン、 高い回遊性を持ち、 新しい都市のライフスタイルを創造する場所、 都市に変化を呼び込むランドスケープデザインに挑戦する。

■課題の進め方・ポイント

・前半課題のマスタープランの中で拠点となるオープンスペース（具体的には広場、公園、道路、歩行者空間、土木施設、埠頭、工業跡地、公開空地など）を選定する。 グループの中で選択した拠点オープンスペースを組み合わせることで都市にどのような活力をもたらし、 変化を起こすのか目標を設定する。
・都心部とウォーターフロントの関係性を再考し、 都市における新しい水辺の意味を考える。
・拠点とする対象敷地の周辺 1 街区程度（拠点エリア）も拡大した対象敷地として捉えデザインコンセプトを構想する。
・敷地における環境条件などの直接的なコンテクストと、 経済・文化・社会・生態などより広い概念のコンテクストの双方を理解し、 設計を進める。
・対象敷地（拠点）と周辺エリア（拠点エリア）においてどのようなランドスケープ操作が都市活性化のツボとなるのかを敷地周辺の操作も考えつつ設計を進める。
・面的な敷地における地形操作、 植栽・水・小構造物等ランドスケープから発想する敷地デザインを学ぶ
・プログラムやアクティビティを構想し、 都市内の回遊性を高めるだけでなく多様な利用を誘発するデザインの仕組みをつくる。
・都市スケール～身体スケールにおけるデザイン操作を行い、 スケールの伸縮と操作の有効性を立面・断面・詳細などの検討を通して空間の設計へとつなげる。
・個別の設計を進めながら課題の大きな目標に対してグループ・メンバーの個別の敷地デザインがどのように全体に作用しているか、 確認しながら設計を進めること。

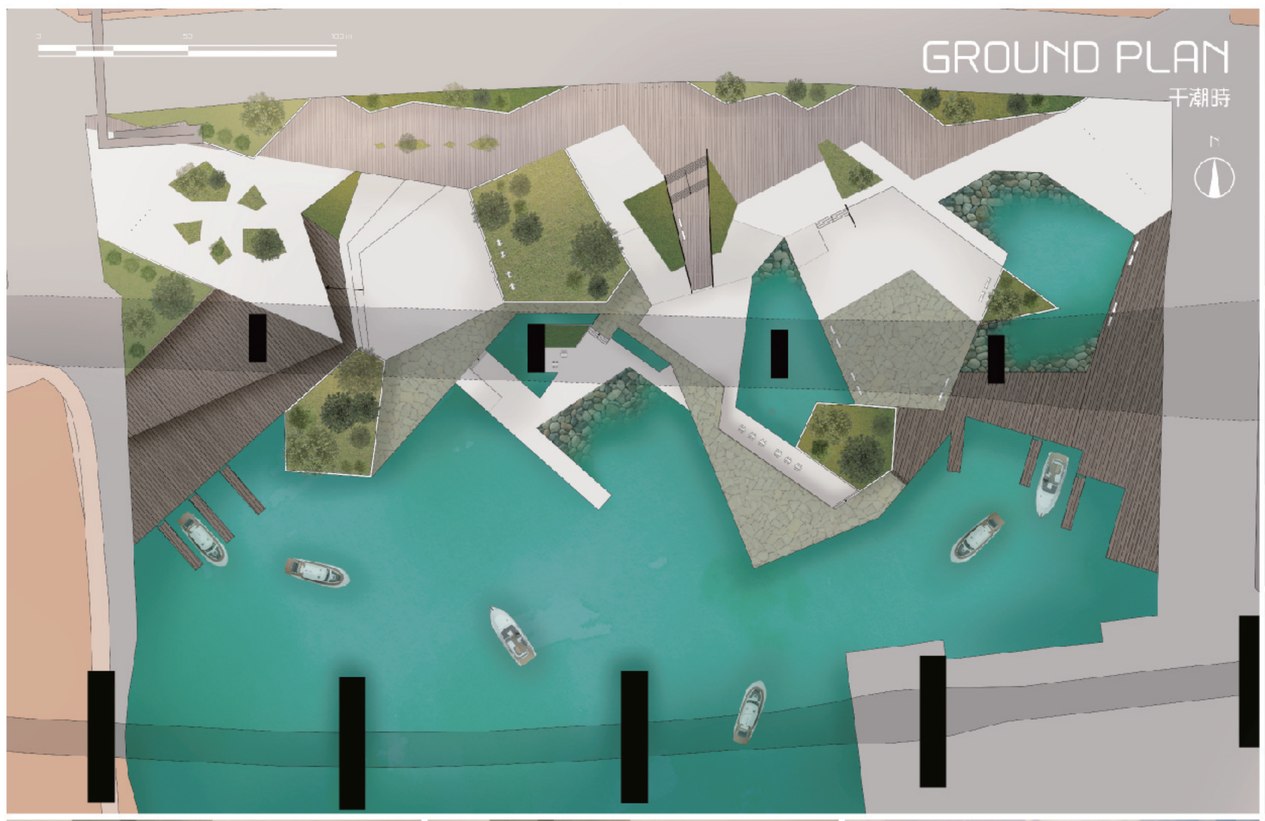
■設計キーワード

都市広場、 立体公園、 水のランドスケープ、 パブリックとプライベート、回遊性、多様性、ピア・スケープ、テラス、屋上、半屋外、中間領域、スポーツ、身体性、速度、アクティビティ、生活、劇場、多機能、変化、時間とプロセス、 物語性、 水平性と垂直性、 都市の庭、 歩行者空間、自転車、スケートボード、ウォーターフロント、海上公園、眺望、階段、ランドフォーム、複層的、人工地盤、気候変動、雨水、防災拠点、ファニチャー、 ポケットパーク、 ウォール、 植物都市、 パブリック、 インダストリアル・ランドスケープ、 テクスチャー、 記憶、リノベーション、 レベル差、スロープ、ショッピング、健康、子供の遊び場、エコロジー、食、眺望、 ショッピング、 森、 自然と人工物、 夜のランドスケープ、 光

揺蕩ぎ、つなぐ。

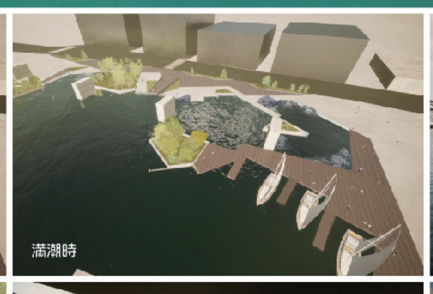
大石慎太朗（栗山研究室）

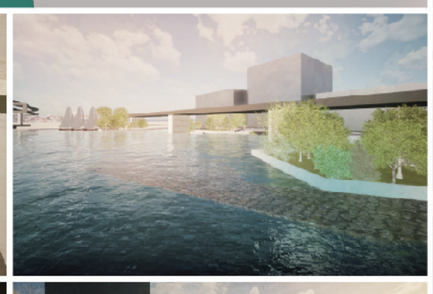
ランドマークと町、さらには、 神戸のエッセンスである海と町とを有機的に結ぶ都市公園を提案する。「潮の満ち引き」が人々の動線に影響を与え、刻々と居場所が変化する空間は、 単調であったシークエンスに「揺らぎ」をもたらし、 町の意識は海へと向かっていく。

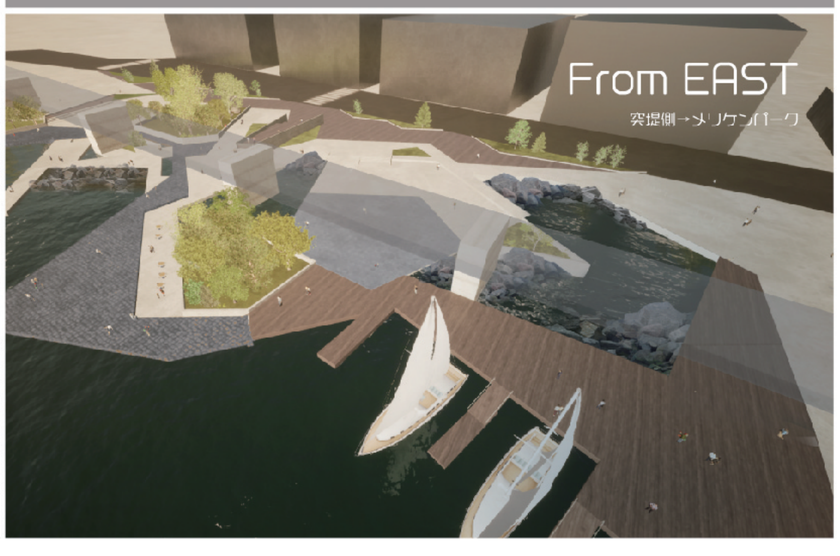


















Re-grid Square

田島広大 (槻橋研究室)

およそ 150 年前に J.W. ハートによって設計された旧居留地は、「東洋における居留地として最も良く設計された美しい街である」と称賛された。 ここに用いられたグリッド状の道路を高架下で再編成し、 都市部とウォーターフロントをつなぐオープンスペースを提案する。

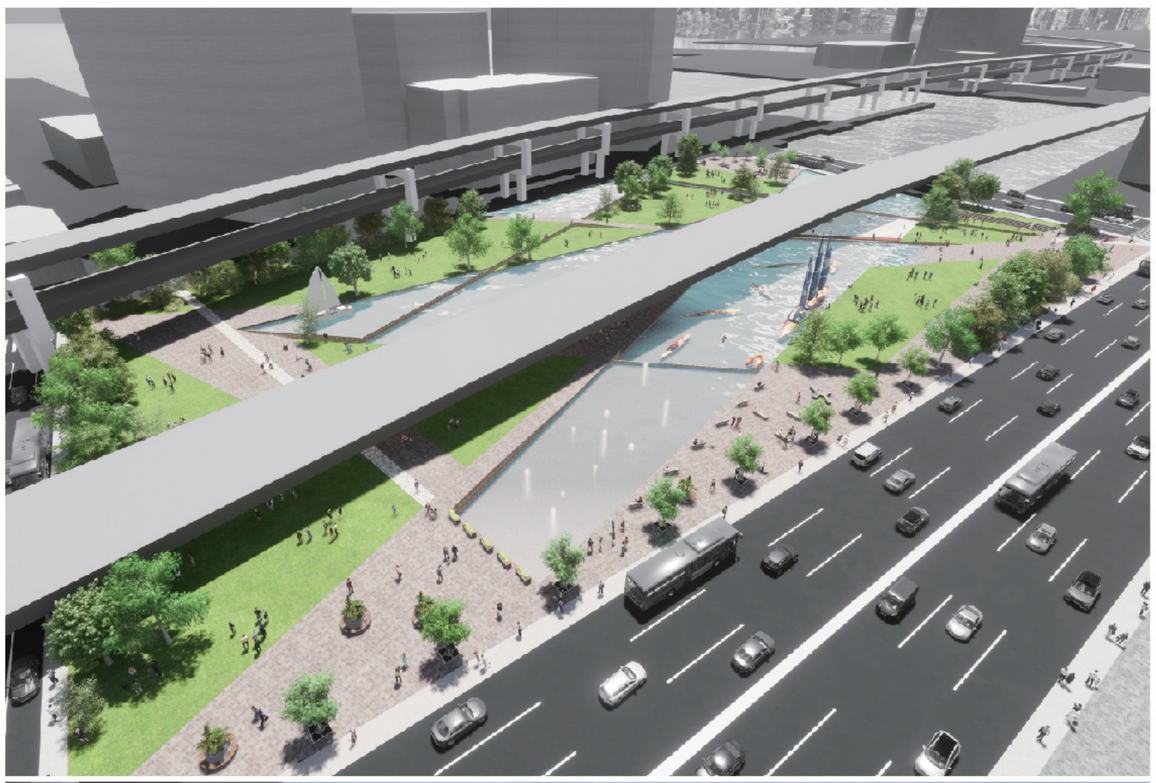






Diagram for Section

高架下空間の、「暗い」、「狭い」という印象を解消するために下図のような2つの手法を用いる。
水盤を高架下に配置することにより、 太陽光が水面で反射し、 揺らめく柔らかな光として高架下空間を明るく照らす。 水盤の深さを各所で変化させることによって、子どもが入って遊べる浅い水盤や、カヌーなど水上アクティビティが体験できる深さのある水盤を設置し、 多様なアクティビティを創出する。
高架下の地面のレベルを下げ、敷地中央を最も低くしたサンクンガーデンにすることで、 高架による空間的な圧迫感を解消し、 また、 太陽光を高架下空間に取り込みやすくなる。

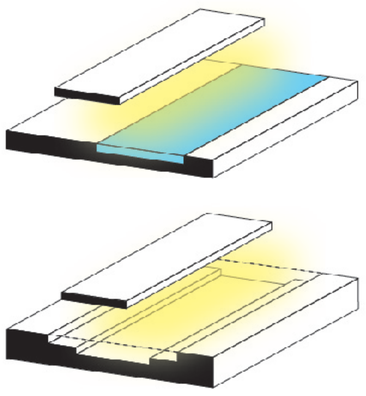


Diagram for Plan

高架による都市部とウォーターフロントの分断を解消するため、 この敷地内にそれぞれの要素を取り込み、 緩やかに両者をつなぐ架け橋となる。 都市と高架下空間をつなぐ要素として、 旧居留地など周辺街路の角度を敷地内に取り込む。 同様に海につながる街路の角度も取り込む。それらを敷地内で様々な軸線として再定義する。

- ポートタワー、 メリケンパークを望む軸
- 海へとつながる軸
- 歴史的建造物の軸
- 2本の高架に沿う軸













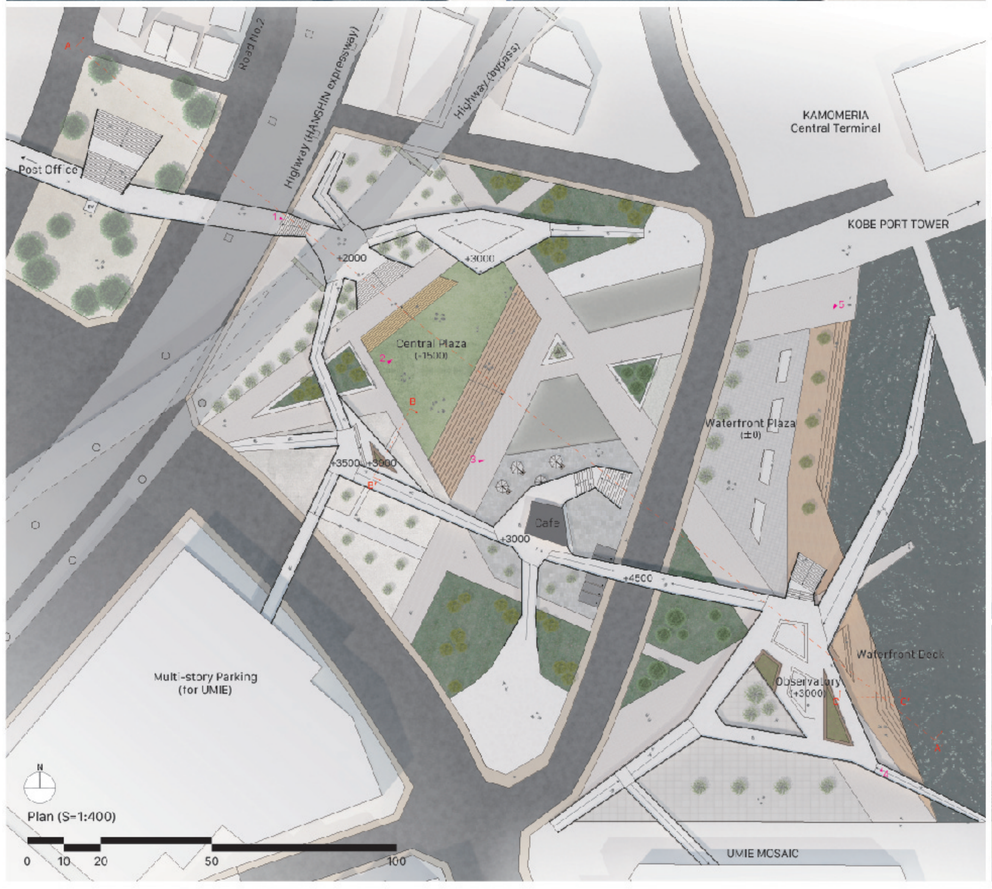


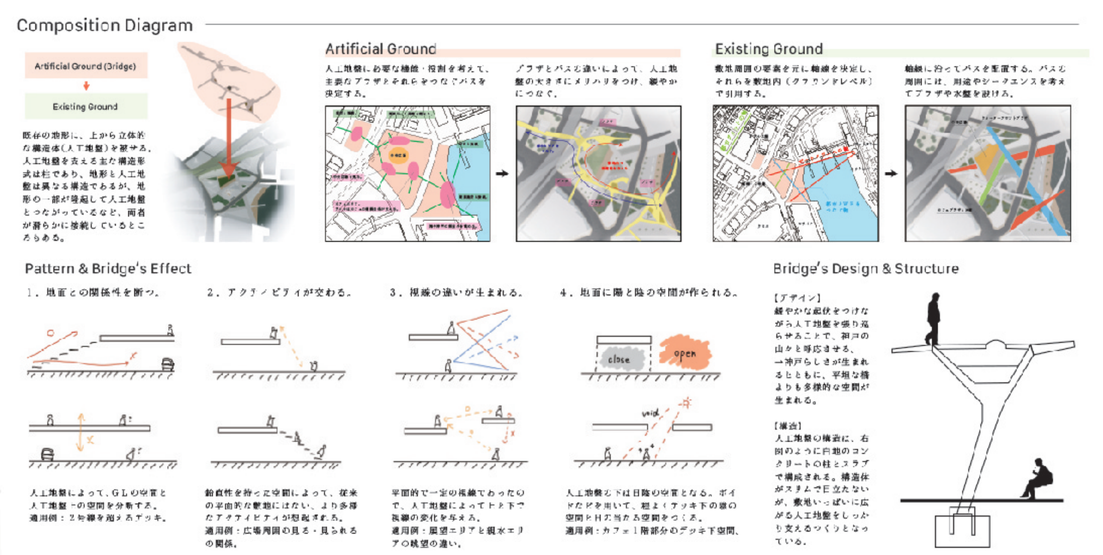
Harbor AcrosScape

小野原祐人 (槻橋研究室)

神戸ハーバーランドは、 高架などの周囲の要素によって街と分断している。 そこで、 既存の地形に新たな人工地盤を挿入して、 都心部とハーバーランド、 ウォーターフロントを繋ぐとともに、 平坦だった土地に起伏をつけて多様性のあるランドスケープを創出する。









Urban Coast

大西健太（槻橋研究室）

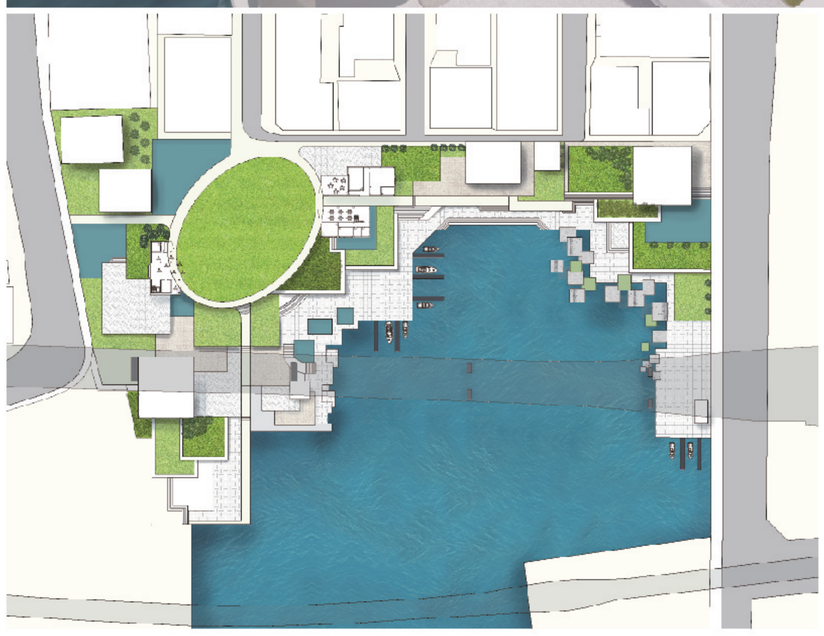
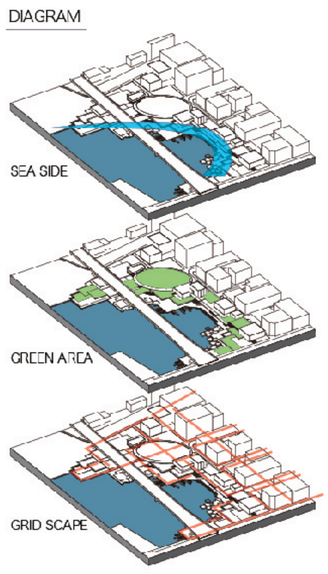
活気あるオフィス街と裏側感のある海際空間を繋ぐランドスケープ。2号線を地下へ通し、都市部のグリッド構造をスケールダウンさせながら海際まで継承させることで都市とウォーターフロントの境界を消し去り、都市に溢れる人々を海へと誘い込む。

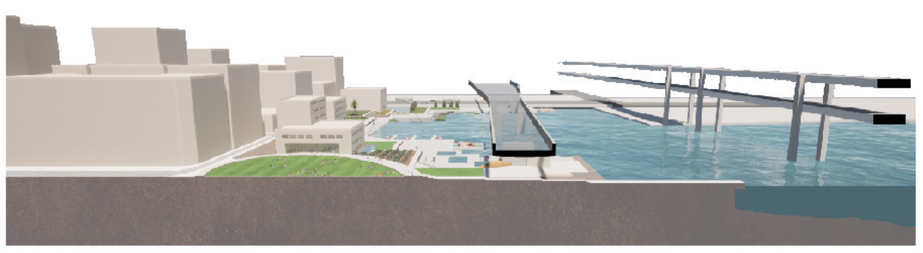










DIALOGUE with WILD

篠原敬佑（遠藤研究室）

植物や海という野生と対話できる新たな楽園。思弁的実在論から着想を得て、街に少し閉じた半私的なランドスケープを挿入する。人々を日常の様々な関係性から解放し、野生との対話を通して自己と向き合い、空間を私的利用することができる場を設計する。

